

## 『統計検定準1級対応 統計学実践ワークブック』

(日本統計学会 編, 学術図書出版社)

## 正誤表 第1版 第7刷用

頁	場所	誤	正
65	8行目	「これを、最尤推定量の漸近正規性 (asymptotic normality) という。」 に脚注として以下を追加してください。 なお、漸近正規性をもつ推定量に対して、その極限分布の分散がクラメル・ラオ不等式の下限を達成することを漸近有効性と定義することもあるが、分散の極限と極限分布の分散は一般には異なるので、上記の漸近有効性の定義とは厳密には異なる。	
66	下14行目	半径 $r$ を	半径を
66	下11行目	このとき	コインの半径は平均 $r$ の確率分布に独立同一に従うとするとき
69	4行目	「ある。」の後に以下を追加してください。 ただし、これはコインの半径が平均 $r$ の分布に従うと仮定したからであり、コインの面積が平均 $\pi r^2$ の分布に従うなら、観測面積の平均を用いても問題ないことに注意。	
101	下2行目	7人に与えられる順位の組合せ	群 A の3人に与えられる順位の組合せ
105	14行目	$(x_i, y_i)$ と $(x_j, y_j)$ ( $i \neq j$ )	$(x_i, y_i)$ と $(x_j, y_j)$ ( $i < j$ )
106	下14行目	6人に与えられる順位の組合せ	A群3人に与えられる順位の組合せ
124	3行目	$X_t = \sum_{i=1}^{N_t} U_k$	$X_t = \sum_{k=1}^{N_t} U_k$
166	下14行目	特性 (characteristics)	特性 (characteristics)
178	下1行目	$2^{3-1} = 8$	$2^{4-1} = 8$
185	下2行目	すべて調査単位	すべての調査単位
191	下8行目	修正項 $(N - n)(N - 1)$	修正項 $(N - n)/(N - 1)$
198	例2 [1]	小テストの結果を図 22.1 のように第1, 第2主成分で	小テストの結果を第1, 第2主成分で
204	下7行目	$(\hat{w}^\top \bar{\mathbf{x}}_1 + \hat{w}^\top \bar{\mathbf{x}}_2)/2$	$(\hat{w}^\top \bar{\mathbf{x}}^{(1)} + \hat{w}^\top \bar{\mathbf{x}}^{(2)})/2$

242	1行目	$ \phi  > 1$ ならば	$ \phi_1  > 1$ ならば
250	下7行目	周期が $\lambda_1$ から $\lambda_2$ の変動に帰着する変動	周波数 $\lambda_1$ から $\lambda_2$ に帰着する変動
282	12行目	$\exp\left(-\frac{(x_i - \mu)}{2\sigma^2}\right)$	$\exp\left(-\frac{(x_i - \mu)^2}{2\sigma^2}\right)$
285	下6行目	アリゴリズム	アルゴリズム
317	下10行目	標準誤差を $\widehat{\text{se}}(x)$ を求め	標準誤差 $\widehat{\text{se}}(x)$ を求め

---